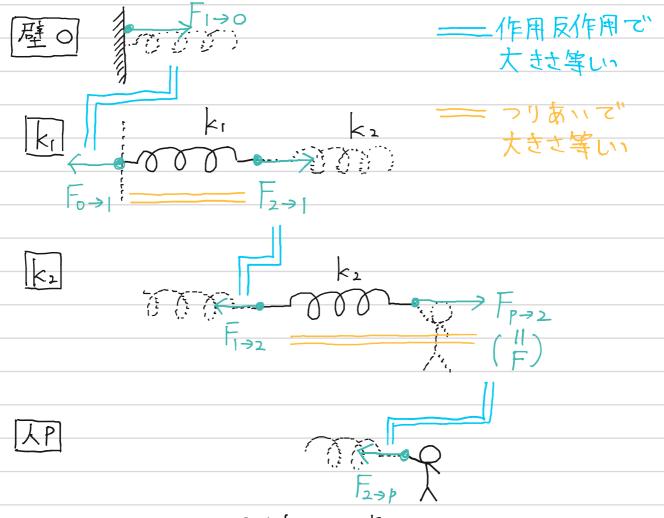
[20] 壁もO、k, も 1. k2 も2. 人をPとする

(1) 個別に力を見出だす.



上図のように力を追跡すると書いた力は全て下(F+22)の大きさとわかる。

(の)フックの法則で"未まるのはばねの3単性力なので"

$$k_1 \cap \pi$$
 $F_{1 \to 2} + F_{1 \to 0} \Rightarrow k_1 x_1$
 $k_2 \cap \pi$ $F_{2 \to 1} + F_{2 \to p} \Rightarrow k_2 x_2$ と書ける。

$$|F_{1\to 2}| = |F_{2\to 1}| = F \times \sigma z''$$
 $k_1 \times l_1 = F$
 $\Rightarrow \times l_1 = \frac{F}{k_1} = \frac{F}{k_2} =$

[20] (1) (a) 続き

また、
$$\chi_1 + \chi_2 = \chi$$
 であり、 Ω , Ω を代入して、

$$\frac{F}{k_1} + \frac{F}{k_2} = x$$
 $\therefore x = (\frac{1}{k_1} + \frac{1}{k_2}) F = \frac{k_1 + k_2}{k_1 + k_2} F$

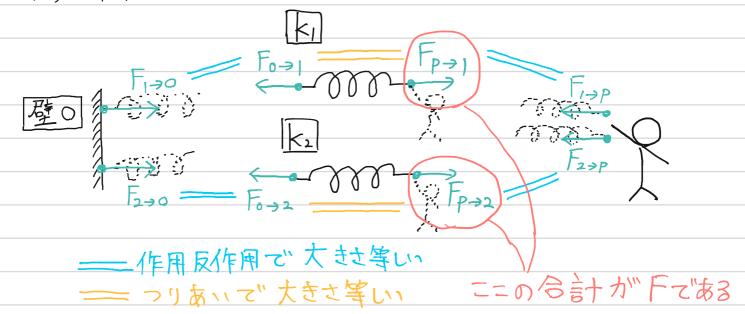
(b) 合成ばね定数をKとすると

$$\Rightarrow x = \frac{1}{K} = \frac{1}{K}$$

前問(a)の式とととべて

$$\frac{1}{K} = \frac{1}{k_1} + \frac{1}{k_2}$$

(2) 個別に力を見出だす



フックの法則より

$$F_{1\rightarrow p} = k_1 \times F_{2\rightarrow p} = k_2 \times F_{2$$

また、作用反作用の関係より、

[20 (2) (a) 続き.

題意制

(b)合成ばね定数をドとすると

$$F = Kx$$

$$\Rightarrow x = \frac{1}{K}F$$

前間(の)の答えとヒヒベて

合成ばね定数は公式として暗記しておく、一

並列ばね ド= k,+k2+ … ← には大きくなる